

平成23年2月8日

平成22年度 香川大学地域貢献推進経費

## 香川大学地域貢献推進経費成果発表会の開催について

香川大学は、大学が果たす社会貢献目標の一つに、社会が抱える課題に対応した実践的提言を行い、地域の活性化に貢献することを掲げています。この目標を踏まえ香川大学では、蓄積された研究成果をもとに、地域の文化、産業、医療等の振興に寄与することができるよう、企業や行政機関、あるいはコミュニティ等の地域社会との積極的な連携活動を進めて参りました。その活動の一環として、平成18年度から学長裁量経費により地域貢献推進経費を設け、学内公募により毎年10件程度の「地域貢献を推進するための課題」を採択し、事業や研究を推進しています。

本会では、今年度に採択したものの中から、5件の事業・研究課題の概要と進捗状況について報告いたします。この発表会を通じて、香川大学の地域貢献活動に対するご意見やご感想を頂戴できればと考えております。多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

### 1. 日時

平成23年2月16日（水） 13:30より

### 2. 場所

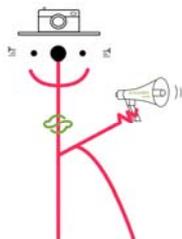
香川大学ミッド・プラザ（高松市常磐町1丁目）

### 3. 発表内容等

「香川大学シーズ「香大農R-1」ブドウの戦略的活用に向けた地域協働」ほか  
発表内容の詳細については、別紙をご覧ください。

### 4. 備考

会場の都合（定員50席）がございますので、参加を希望される方は事前にお申し込み下さい（チラシ裏に申込様式）。



#### お問い合わせ先

- 香川大学研究協カグループ 井上
- TEL：087-832-1316
- メール：tikyosenm@jim.ao.kagawa-u.ac.jp

## 別 紙（各発表課題の概要）

### 1. 香川大学シーズ「香大農R-1」ブドウの戦略的活用に向けた地域協働

香川大学の知的財産シーズであるブドウ品種「香大農R-1」の生産量が順調に増加し、大学ブランドワインの製造本数も約1万本に達した。今後想定されるブドウ生産量の急拡大に対応し、ワインのブランド力の維持向上とともに、ブドウ品種の特徴を活かした新たな製品の企画開発を地域と協働して実施する。

本事業では、「香大農R-1」ブドウの地域における戦略的な活用をめざし、本学教職員、企業、専門家で構成する企画開発研究会を発足し、課題に対応する二分科会を設けて、ブランド化に向けた調査、マーケティング、生産技術開発、製品開発等を実施する。

（事業代表者：地域マネジメント研究科 教授 関 義雄）

### 2. 香川県における維持血液透析患者の鉄剤およびエリスロポエチン（EPO）製剤使用量が及ぼす生命予後に関する研究

国内において30万人ともいわれる慢性維持透析患者のうち、社会復帰を果たしている慢性腎不全患者の半数以上が、何らかの心血管合併症を認めるが、この危険因子の一つといわれる腎性貧血には、輸血に頼らないエリスロポエチン製剤（以下、EPO製剤）投与による治療が有効である。しかし、単にEPO製剤投与のみでは貧血治療が不可能な場合もあり、こうした場合、その他の要因（尿毒症マーカー、鉄代謝パラメーターほか）と、それらが生命予後に与える影響を比較し、その結果に基づいた総合的な管理が必要である。そこで2008年から、これらの比較試験が全国的に開始された。香川県でも香川大学附属病院・腎臓内科が中心となり、香川県全域の透析施設と協力して、特に心不全に注目しながら、貧血管理状況と心機能の関連、特に心筋症の原因として注目される心筋自己抗体についての検討を行っている。

平成21年度の香川大学地域貢献推進経費では、香川県の透析患者に対する貧血治療の実態を明確にすることができ、透析患者において、心筋自己抗体が高率に存在することが見いだせた。

本年度は追跡調査を行うことにより、貧血と心機能の関連性や心筋自己抗体の存在意義を見いだせると考えている。

（研究代表者：医学部 病院助教 海部久美子）

### 3. 香川ブランド養殖魚へのストレス低減施設の開発

全国的に食の安全・安心が叫ばれる中、香川県の水産資源生産力は減少の一途を辿っており、養殖業における人工種苗から成魚までの安定した生産システムの確立が急務となっている。特に、海面養殖施設に作用する波浪の影響により、施設内の魚類にストレスがかかり死亡する例が頻発しており、香川県の行政関係者や漁業者から解決策が求められている。

本研究では、瀬戸内海で卓越する潮流エネルギーを利用することに着目し、行政および地元漁業関係者との連携をはかりながら、実海域における養殖施設を用いた検証実験を行い、波浪による養殖施設への負荷低減技術を開発する。

（研究代表者：工学部 教授 末永慶寛）

#### 4. 四国企業の環境経営の現状に関する実証研究

本研究は、四国の製造企業を対象に、環境経営（事業－製品－拠点における地球温暖化対策、廃棄物管理等）の現状と市場競争力（主に経済パフォーマンス指標による）との因果関係を、定量調査と定性調査により明らかにするものである。そこでは経済学者のマイケル・ポーターが唱えた「厳しい環境規制を契機に企業はイノベーションによって、環境保全と競争優位性を同時に手中にすることが可能である」という仮説を基礎としている。

本研究は、政府の「新成長戦略」を踏まえ、四国地域における「グリーン・イノベーション」の方向性を検討するうえでの基礎を提供するものである。

（研究代表者：地域マネジメント研究科 教授 木全 晃）

#### 5. 特別支援教室すばるの研究成果公開と特別支援教育の更なる充実

香川大学教育学部・特別支援教室「すばる」の研究実践を「根拠のある指導と評価をともなう支援」のテーマのもとに、認知機能アセスメント、保護者・学校への教育支援、個別学習指導、社会性育成支援の各領域について、その成果を広く全国に公開発表する。また小中学校における特別な教育的ニーズのある児童生徒に対する教育支援、とくに「進級による指導」に関して、先進的な教育研究実践を行っている実践者、研究者を招いてシンポジウム及び講演を実施する。

さらには、香川県および近県の小中学校を対象とし、学校内での特別支援教育の取り組み状況、通級指導の実施状況と教育意識に関して調査研究を行い、小中学校での特別支援教育の今後の在り方を検討する。

（事業代表者：教育学部 教授 有馬道久）

平成22年度

# 香川大学 地域貢献推進経費 成果発表会



日時

平成23年 2月16日(水)  
13:30~

場所

香川大学  
ミッド・プラザ  
(高松市常磐町1丁目)

香川大学は、大学が果たす社会貢献目標の一つに、社会が抱える課題に対応した実践的提言を行い、地域の活性化に貢献することを掲げています。この目標を踏まえ香川大学では、蓄積された研究成果をもとに、地域の文化、産業、医療等の振興に寄与することができるよう、企業や行政機関、あるいはコミュニティー等の地域社会との積極的な連携活動を進めて参りました。その活動の一環として、平成18年度から学長裁量経費により地域貢献推進経費を設け、学内公募により毎年10課題程度の「地域貢献を推進するための研究課題」を採択し、事業や研究を推進しています。本会では、今年度に採択したものの中から、5件の事業・研究課題の概要と進捗状況について報告いたします。この発表会を通じて、香川大学の地域貢献活動に対するご意見やご感想を頂戴できればと考えております。参加費は無料ですので、多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

参加お申し込み

**参加は無料です。**

裏面の参加申込書でお申し込み下さい。  
なお会場の都合により定員(50名程度)になり次第、締め切らせて頂きます。

※会場には専用駐車場がございません。  
ご来場の際には公共交通機関をご利用下さい。  
(コトデン瓦町駅から徒歩5分)



# 平成22年度 香川大学 地域貢献推進経費 成果発表会

日時／平成23年2月16日(水) 13:30～

会場／香川大学 ミッド・プラザ  
(高松市常磐町1丁目)

お問い合わせ

香川大学 学術室 研究協力グループ  
TEL:087-832-1316 FAX:087-832-1319  
E-mail:tikyosenm@jim.ao.kagawa-u.ac.jp

## 発表内容

- 関 義雄** (地域マネジメント 研究科 教授)  
代理発表／永富 太一 (社会連携・知的財産センター 助教)  
『香川大学シーズ「香大農R-1」ズドウの戦略的活用に向けた地域協働』

---

- 海部 久美子** (医学部附属病院 助教)  
『香川県における維持血液透析患者の鉄剤およびエリスロポエチン(EPO)製剤使用量が及ぼす生命予後に  
関する前向き他施設共同観察試験』

---

- 末永 慶寛** (工学部 教授)  
『香川ブランド養殖魚へのストレス低減施設の開発』

---

- 木全 晃** (地域マネジメント 研究科 教授)  
『四国企業の環境経営の現状に関する実証研究』

---

- 有馬 道久** (教育学部 教授)  
代理発表／武蔵 博文 (教育学部 教授)  
『特別支援教室すばるの研究成果公開と特別支援教育の更なる充実』



※会場には専用駐車場がございません。  
ご来場の際には公共交通機関をご利用下さい。  
(コトデン瓦町駅から徒歩5分)

## 成果発表会 参加申込書

お申し込みの際は、下記の申込書に必要事項をご記入のうえ、FaxまたはE-mailにてご連絡くださいますようお願いいたします。ご記入いただく個人情報につきましては、今回の発表会でのみ使用し、これ以外の目的で利用することはありません。

■ FAX:087-832-1319 ■ E-mail:tikyosenm@jim.ao.kagawa-u.ac.jp

ご所属	お名前	電話番号	E-mail
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			

※メ切 2月14日(月)